

# SEA LIFE NEWS

TOKYO SEA LIFE PARK



葛西臨海水族園

## ナーサリーフィッシュ

【英名】nurseryfish

【学名】*Kurtus gulliveri*

オーストラリア北部やニューギニア南部の海水と淡水が入り混じった汽水域に生息する魚です。成熟したオスの額にはフックのような突起が発達し、ここに卵塊を引っかけてふ化するまで子守りをするところから、別名コモリウオとも呼ばれます。水槽をのぞいてみると、中層でじっと動かない姿はまるで静止画のようです。ナーサリーフィッシュは、普段はこうしてじっとしていますが、エサとなるエビや小魚が目の前に来ると、素早く口を突き出し一瞬にして丸呑みにします。水族園では、この度、約2年ぶりにナーサリーフィッシュの展示を再開しました。国内の水族館で展示しているのはなんと葛西臨海水族園のみ。ぜひご覧ください。(飼育展示係 松本 あかり)

## CONTENTS

### SEA LIFE TOPICS

- 2年ぶりのメンバーチェンジ アオウミガメの輸送と展示

### なぎさNEWS

- 東京湾のガンテイスヨウジ
- なぎさで探そう! こんな生き物「ニホンスナモグリ」

### 水族園のもう一つの顔

- カタマイマイの展示開始
- 鳥インフルエンザの脅威から鳥たちを守る!

### TSLP LATEST

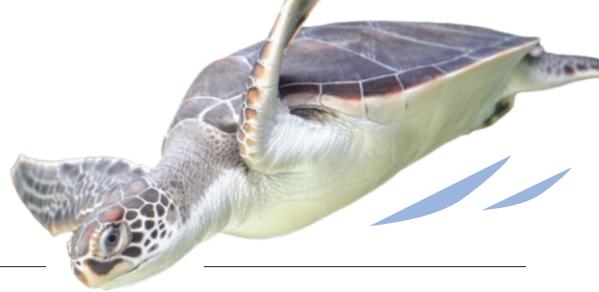


Vol.22 No.1 2024

FEBRUARY

通巻

114



## 2年ぶりのメンバーチェンジ アオウミガメの輸送と展示

アオウミガメは世界中の熱帯、亜熱帯域の海に分布していますが、日本で最大の繁殖地といえば小笠原諸島。ウミガメは、観光資源としてはもちろん、古くからウミガメ漁や郷土料理でも親しまれている、小笠原を代表する生き物のひとつです。水族園では、大きなウミガメ類を飼育できる水槽がないため、小笠原諸島の母島でふ化した子ガメを借りて展示しています。昨年の9月に、大きく成長した子ガメを母島の保護施設に戻し、生後1ヶ月の子ガメを新たに借りてきました。今号では、そのときの様子をご紹介します。

### ウミガメ移動大作戦！

母島漁業協同組合では、アオウミガメの保護のため、保護施設内で産卵した卵を回収してふ化させ、子ガメを育て放流するふ化放流事業の取り組みをおこなっています。

2023年9月、アオウミガメの個体交換のため、2年ぶりに小笠原諸島母島への輸送をおこないました！ 運んだのは、2021年に借りた2匹。甲羅の長さは約40cm、体重は約10kgにまで成長しました。水族園から母島までは船で約30時間の長旅です。まずは、長時間アオウミガメを運ぶ輸送箱の準備をしました。それぞれのウミガメがぴったりとおさまる大きさの発泡スチロール箱を用意し、蓋に呼吸用の穴をあけました。また、箱の内側をつるつるのボードで囲い、ウミガメが鋭い爪をひっかけて怪我をしないようにしました。

当日は、ウミガメの健康チェックののち、1日水に漬け込んだ麻布で体全体を包んで輸送箱に収容しました。輸送中は約3時間ごとに様子を見て、乾燥しないように霧吹きで加湿しました。父島を経由して母島に到着した後は、母島の保護施設にウミガメをお返ししました。2匹は、数週間生け簀で過ごした後、無事に母島の海に放流されました。

帰りの船では、新たに借りた2匹のウミガメを水族園まで運びました。2023年8月にふ化した、甲羅の長さ約6cm、体重46gと手のひらよりも小さい子ガメです。輸送の手順は成長した個体と同じですが、まだ体や爪が柔らかいため、2匹が並べる大きさの発泡スチロール箱1つで運びました。乾燥対策も、体全体を布で覆うと負荷がかかるため、水にひたした布を底に敷くことにしました。水族園に到着した後は、飼育担当者にバトンタッチです！

(調査係 太田 智優)



出発前の体重測定



船で輸送中 もう少しのがまん



生け簀で泳ぐアオウミガメ



母島の海

### アオウミガメ、展示までの舞台裏

水族園では、新たに生き物が来たときに、まずその個体が病気をもっていないかをチェックします。やって来た2匹の子ガメも、バックヤードにある水槽で様子を見ながら、ふんのなかに病気の原因となる寄生虫や細菌などがいないかどうか獣医師による検査を行い、健康であることを確認しました。

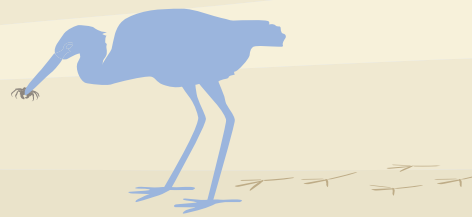
健康状態の確認ができて、すぐに展示をすることはできません。ふ化してから間もないウミガメは、エサをうまく噛み切ることができないため、与えたエサをのどに詰まらせてしまう可能性があるのです。そこで、殻をむいたサクラエビを米粒ほどの大きさにして、注意しながら与えました。2か月後には、約1cmの大きさに切ったアマエビやアサリ、アジなどを食べられるようになり、体重は6倍以上になりました。そして、2023年11月30日、「東京の海」エリア「小笠原の海4」水槽上部の小水槽に展示デビュー！ このまま順調に成長し泳ぎも上達すれば、皆さんのお手元に今号が届く頃には、下の広い水槽でご覧いただけるでしょう。今後のアオウミガメの成長を楽しみにしていただけたらうれしいです。

(飼育展示係 森田 夕貴)



水族園にやって来た子ガメ

# なぎさ NEWS



## 東京湾のガンテンイシヨウジ

ガンテンイシヨウジは、河口域に生息しているヨウジウオのなかまです。体の側面に、黒い縁取りのある白い斑点がたくさん付いていることが特徴です。転石やカキ殻などのかげに隠れ、小型の甲殻類をはじめとする小さな生き物を吸い込むようにして食べます。「葛西の海 1」水槽でも、ものかげから頭だけを出して周囲を探る様子が観察できます。エサとして入れているアルテミアの幼生を食べる姿も見られるかもしれません。実はガンテンイシヨウジは、近年、東京湾でも確認されるようになってきました。かつては中部や西日本以南に分布しているとされていた種です。東京湾にある河口周辺や運河などの各所で記録され始めており、東京湾内で繁殖と越冬に成功しているのではないかと考えられています。



カキ礁ってこんなところ



周囲を探るガンテンイシヨウジ

「西なぎさ」でおこなっている葛西臨海水族園の地曳網調査では、2021年からみられるようになりました。「西なぎさ」では一番南側のカキ礁(マガキ同士がくっついてかたまり状になった環境)を利用して生活しているのだと思われます。(飼育展示係 市川 啓介)

### なぎさで探そう! こんな生き物

見つけやすさ ★★☆☆☆

サイズ 全長6-10cm

#### 見つけるコツ

潮が引いた干潟には、生き物たちの巣穴がたくさん。そのなかでも、穴の周りに砂がもりあがって小さな山のようにになっているところはないかな? きっとニホンスナモグリがかくれている。深さ50cmくらいの巣穴を掘ることもあるよ。巣穴を見つけたら、できるだけ深くまでスコップで素早く掘ってみると見つかるかも。

## ニホンスナモグリ (スナモグリ科)

### ■ニホンスナモグリはこんな生き物

体の色は白っぽく、少し透けて見えるニホンスナモグリ。右と左でハサミの大きさが違っているよ。エビのような形をしているけれど、触ってみるととてもやわらかい。ニホンスナモグリは干潟の砂地に深さ30~50cmの巣穴を掘ってくらしているんだ。見つけたらそとつかんで、砂の上に置いてしばらく観察してみよう。もぞもぞ歩き回ったり、その場でじっとしたり、砂の中に潜ろうとしているみただけで干上がった干潟ではなかなか潜ることができないらしい。観察が終わったら海水のある所に戻してあげよう。(教育普及係 佐藤 まなみ)



こんな巣穴にかくれているかも



片方のハサミが大きいぞ

ニホンスナモグリ(実物大)

# 水族園 のもう一つの顔

## カタマイマイの展示開始

2023年10月から、小笠原諸島に生息する「かたつむり」のなかま、カタマイマイの展示を情報資料室で始めました。本誌82号で絶滅が心配される本種の繁殖の取り組みを紹介しましたが、飼育下繁殖が安定してきたため、このたび公開する運びとなりました。展示ケージの中には、現地で入手したタコノキを植栽し、カタマイマイの生息場所で見られるヤシのなかまのオガサワラビロウの落ち葉を敷いて、現地の状況に近づけるようにしました。また気温や湿度にも注意し、冬はヒーターによる加温を行い、適した湿度を維持しながら飼育しています。

都立動物園・水族園の4園では、これまでカタマイマイとアナカタマイマイを各園で分担して飼育繁殖に努めてきましたが、今年よりチチジマカタマイマイとキノボリカタマイマイの2種類を加え、水族園では後者の飼育を受け持つことになりました。地上性のカタマイマイと違い、キノボリカタマイマイはオガサワラビロウなどの木の上にくらす樹上性のかたつむりです。バックヤードで大切に育て、繁殖の報告ができるように取り組んでいます。

(飼育展示係 笹沼 伸一)



殻に貼ったシールの個体番号で管理しています

## TSLP LATEST

TOKYO SEA LIFE PARK

- 11/30 「小笠原の海 4」水槽でアオウミガメを展示
- 12/1-27 「ペンギンの生態」エリアで鳥インフルエンザ対策を実施
- 12/1-28 海鳥や自然環境について学ぶ「つどえ オロロ〜!」を実施
- 12/7 「葛西の海 1」水槽でガンテンシヨウジを展示
- 12/7-1/9 干支展示水槽でビッグベリードシーホースを展示
- 12/8 「浮遊生物 5」水槽でタコブネの展示終了(飼育記録107日)
- 12/10 高校生・大学生向け「海の学び舎」第2回を実施
- 1/2-3 「水族園のお正月2024」を実施
- 1/10-12 伊豆大島で設置型ライトトラップ採集を実施
- 1/11 補修工事のため「ペンギンの生態」エリアの展示を休止
- 1/12 トピック水槽でコノハソウクラゲなどを展示
- 1/18 「浮遊生物 5」水槽でアオイガイを展示

## 鳥インフルエンザの脅威から鳥たちを守る!

鳥インフルエンザは、A型インフルエンザウイルスが引き起こす鳥の感染症です。そのうち、ニワトリやシチメンチョウ等に対する病原性が高いものは「高病原性鳥インフルエンザ」と呼ばれており、他の鳥種に対しても高い病原性を示すことが知られています。野生のフンボルトペンギンでの発生例も報告されており、多数のペンギンや海鳥を飼育している水族園でも対策する必要があります。

2023年11月末に東京都内で野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出された際、水族園では警戒レベルを高め、12月1日から27日までペンギンを展示場から非公開の仮設舎へ移動させました。鳥インフルエンザの予防には、飼育している鳥がウイルスを運んでくる可能性がある野鳥やネズミと接触しないようにすることが重要です。現在の展示場は全てをネットで覆うことが困難であるため、急ぎよ、仮設舎をネットで覆って対応しました。感染症は待ってくれません。都内での発生が分かったその日には対応しなければならず、他の係の職員にも手伝ってもらいながら大急ぎで作業しました。

(飼育展示係 吉本 悠人)



初めて仮設舎に入ったミナマイワトビペンギンたち

### 編集後記

新しいウミガメたちは、数日見ただけでも成長が感じられるほど。今号が発行される頃には広い水槽で泳ぐ姿を見ることができるようかもしれませんね。ウミガメの前脚は、海の中を泳ぎながら生活するためボートのオールのような形をしています。前脚で大きく水をかきながら悠々と泳ぐ姿を見ると、せわしい日常を忘れ、ゆったりした気分になるからフシギ。(高濱)



TOKYO  
SEA LIFE  
PARK

### SEA LIFE NEWS 通巻 114

Vol.22 No.1 2024 FEBRUARY 2月1日発行(次号は2024年4月発行予定)

編集 葛西臨海水族園  
〒134-8587 東京都江戸川区臨海町 6-2-3  
TEL.03-3869-5152  
www.tokyo-zoo.net/  
発行 公益財団法人東京動物園協会  
〒110-0008 東京都台東区池之端 2-9-7  
池之端日殖ビル7階  
TEL.03-3828-2143

